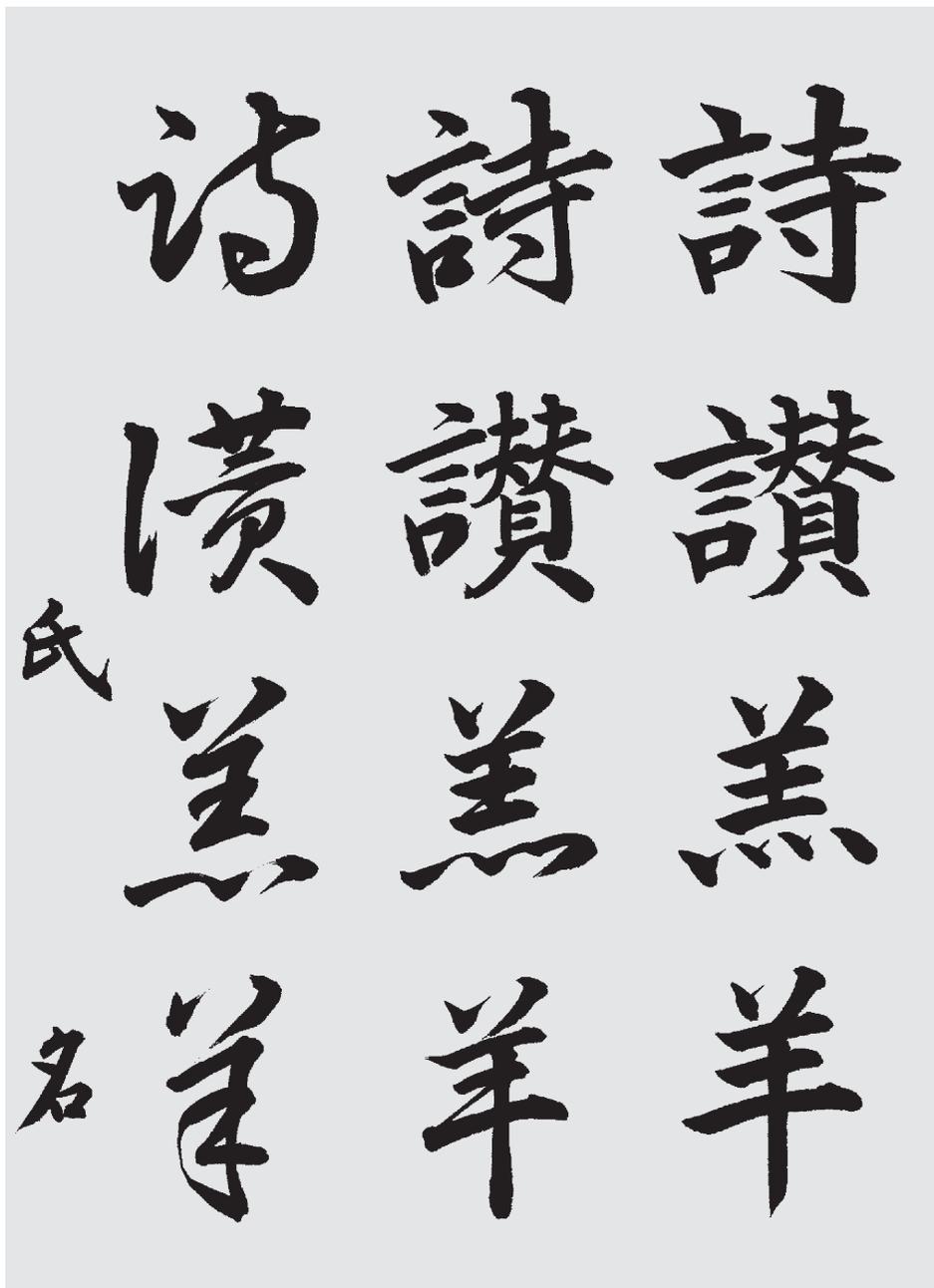


三体千字文を書く(50)

締切り 二月二十日(必着)



奥村憲照先生書

回作品の出し方

▼硬筆部ⅡB5判(二五七mm×一八二mm)以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。(黒色に限る)
▼毛筆部Ⅱ半紙に書いて下さい。(筆ペン可)
▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬毛のどちらか一方に限ります。

▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績(毛筆の場合は毛筆漢字の成績)を、作品余白にお書き下さい。
▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

◆硬筆の専門誌だった大書心に一般毛筆部が設立されたのは、昭和五十六(一九八一)年四月のことです。

◆「三体千字文」課題からスタートし、

憲照先生の穩健中正で気品のある手本が好評を博しました。

◆短期特別課題として、平成二十四年一月から二年間と平成二十八年の一年間学びましたが、今回はその続きです。

◆原点に戻って、基本用筆と正しい崩し方をしっかり学びましょう。

〔千字文〕

四言古詩二五〇句、重複しない千字からなっており、聖徳・修養・修身・齊家等について述べられた習字手本であり、初学者の教科書でもあった。

梁の武帝(在位五〇二〜五四九)の命を受け、周興嗣が王羲之の筆跡中からまとめたといわれる。

〔解説〕

墨悲絲染

詩讚羔羊

墨子という賢人は白い絲の悪く染みやすいのを悲しんだ。

詩経では羊毛の純一なことをたたえている。

一般部規定課題

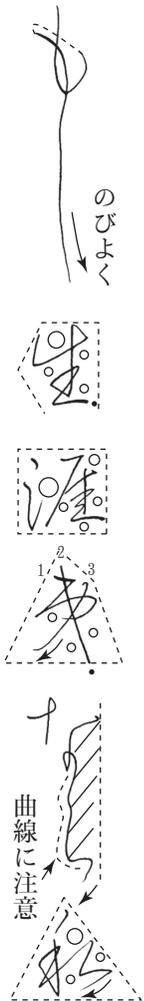
締切り 2月20日 (必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕

〔読み〕もし生涯の 第二版があるなら 私は校正をしたい



▶教範・書範は右課題を「行書」で、師範は「楷書」で出書して下さい。

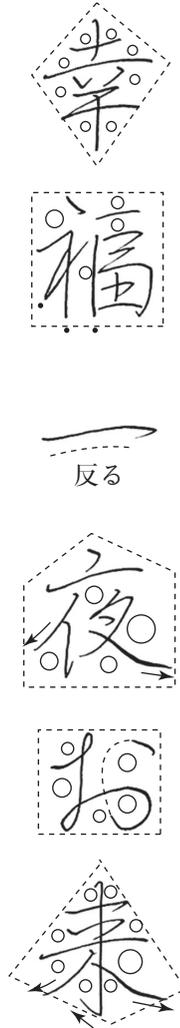


お尾郷翠光書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕



	一	幸
	夜	福
	お	は
	く	
太	れ	
宰	て	
治	来	
	る	

ふる古田圭苑書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

- ◆3月課題予告(行書)
一芸に熟達せよ
多芸を欲ばる者は
巧みならず
- ▼教範・書範Ⅱ楷書
- ▼師範Ⅱ行草または草書

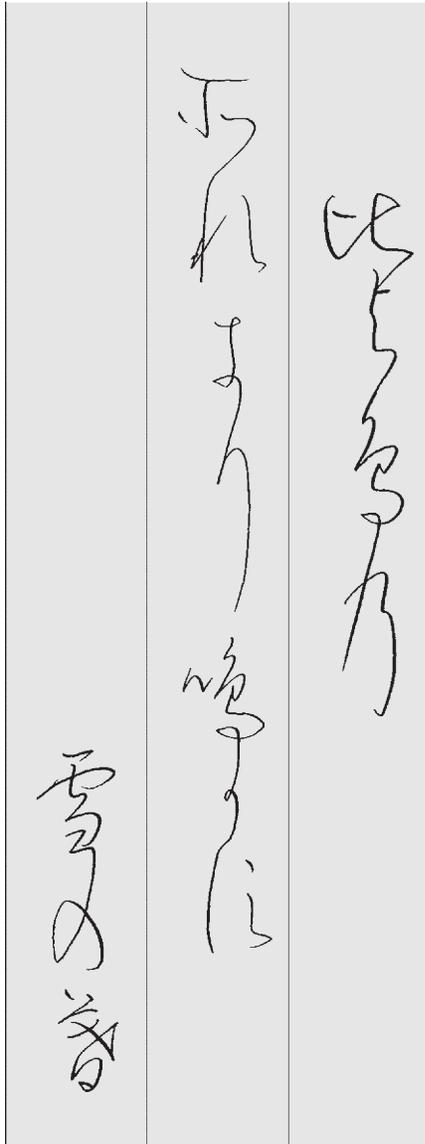
★もし生涯の(書体Ⅱ行草または草書)
ジョン・クレア(一七九三〜一八六四)
英国の詩人。友への手紙より
自分の人生に対して、なかなか納得
できないのが人間の宿命とも言えま
す。この言葉は、もしも人の一生がや
り直してできるのならそうしたい、とい
う不満足な状態を実にうまくあらわし
ています。
彼は生活苦から発狂し、精神病院に
収容されましたが、それを思うとこの
言葉の内容が一段と深刻さを帯びてき
ます。汚濁に染まらなかつた彼は結局
精神面で破れ去りました。破れ去らな
い生涯をもう一度考えてみたかったの
でしょう。

★幸福は…(書体Ⅱ行書)
太宰治(一九〇九〜一九四八)
小説家
昭和十一年九月、師井伏鱒二にあ
てた手紙の冒頭の言葉
「プライドのために仕事したことご
ざいませぬ。誰かひとり幸福にしてあ
げたくて」とも書いています。彼は切
ない時代を生きたのですが、その幸福
は、一夜おかれてやってくるのです。
幸福はすぐにつかまえないもの、し
かしそう安々と手に入りません。即座
に手に入らないものの、一夜待てば
やってくる信じること希望を明日
につなぎ、また生きていく勇氣も湧い
てくるのです。
◆3月課題予告(楷書)
第一の財産は
健康である
エマソン

準初段から六段まで

新入から1級まで

比与鳥乃所支
鵜のそれきり鳴かず雪の暮



た なか き こう 書
田 中 貴 光 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

ひよどり農曾連利寸ゆ支能
鵜のそれきり鳴かず雪の暮



た なか き こう 書
田 中 貴 光 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

【古筆参考】

農の 若 暮 暮 暮 暮
曾 暮 暮 暮 暮 暮
連 暮 暮 暮 暮 暮
須 暮 暮 暮 暮 暮
能 暮 暮 暮 暮 暮

【解説】段の方の一行目は続けて流れを出しましたが、「もろり」は鳥から実線で、力抜く事なく書いて下さい。

◆3月課題予告

まさなる空よりしだれざくらかな

(富安風生)

ひよどり
鵜のそれきり鳴かず雪の暮

(白田亜浪)

【句解】雪の降り積もった夕暮れ、鋭く鳴く鵜の声を聞いた。次の声を心待ちにして耳を澄ましたが、もうそれきり鳴かなかった。

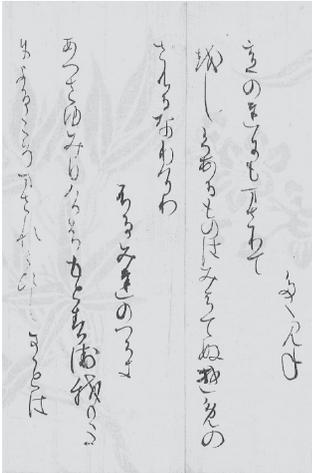
【鑑賞】大正九年の作、へピーピーと四辺の寂莫を破って鳥の叫び、雪がはらはらと散った。はて何鳥だろう。鵜らしかったが：と耳を澄ましたが、唯それきりである。夕暮れのとぼりは濃くなり静けさの底深く我を忘れた。という作者の言葉である。

締切り 二月二十日(必着)

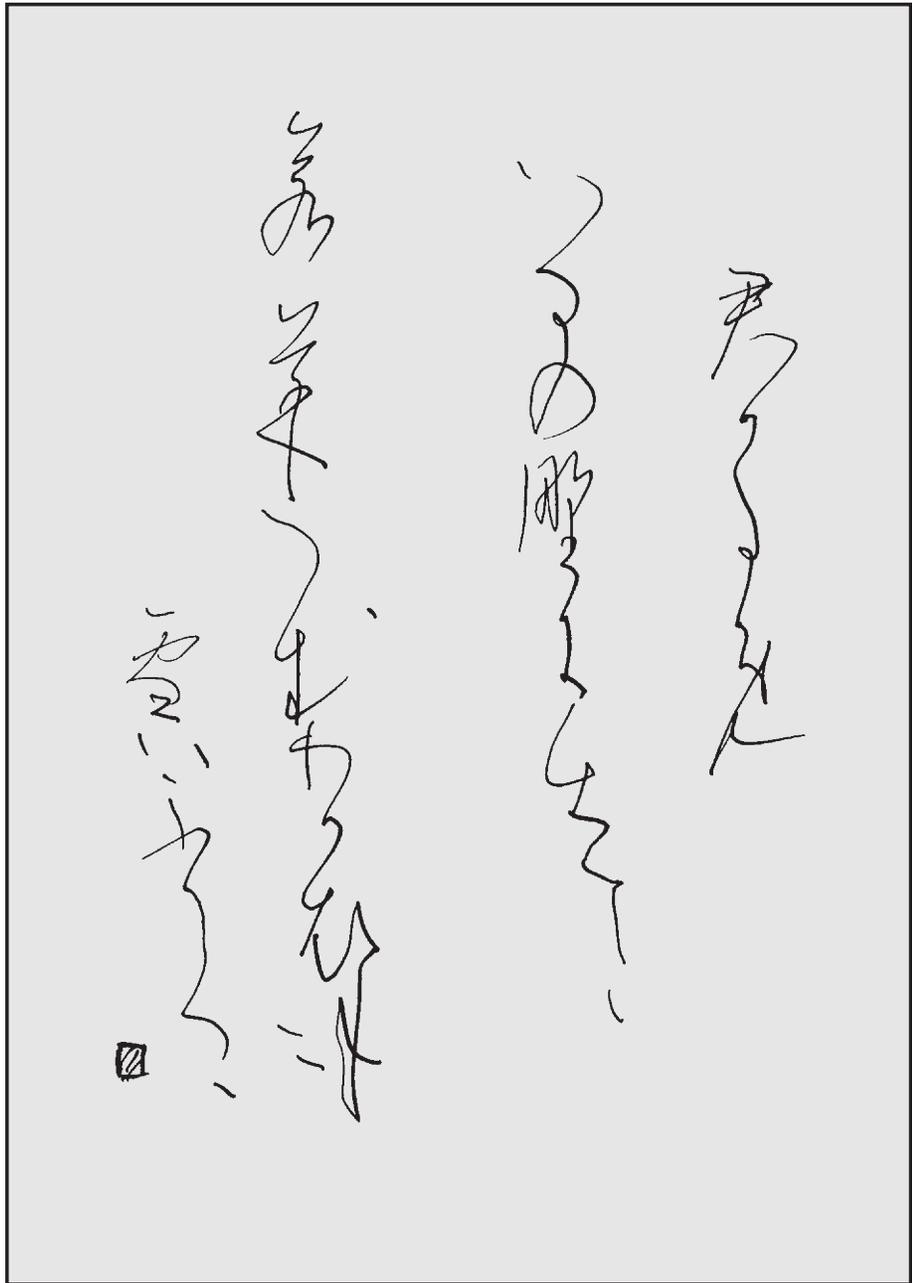
築瀬舟香書

〔古筆参考〕

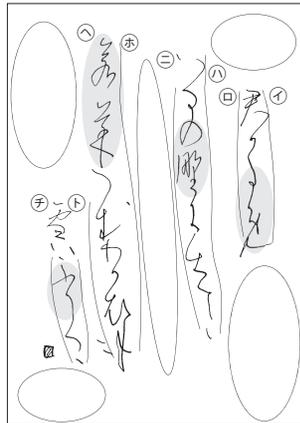
ほんあみぎれ
本阿弥切



意 避 万 利 多 見 年
い の ち に も ま さ り て た ぐ み ね
を し く あ る も の は み は て ぬ ゆ め の 遊 免
さ む る な り け り 利 介 利
ふ る み ち の つ ら き 避
あ づ さ ゆ み ひ け ば も と す る 我 が く た 多
に よ る こ そ ま さ れ こ ひ し き こ と は 支



〔解説〕



〔解説〕

〔出典〕古今和歌集
(新潮日本古典集成)

〔歌意〕あなたのために春の野に出て
若菜を摘む私の袖に、冷たい雪がさか
んに降りしきっている。

君がため春の野に出て、若菜つむ
わが衣手に雪はふりつつ、

◆3月課題予告

梅が枝に来るる鶯春かけて
鳴けどもいまだ雪はふりつつ

- ①と②、③と④、⑤と⑥、⑦と⑧、
それぞれ呼応。
- ○ 余白大切。
- ● 行の中の密の動き大切。
- 行のポイント大切。
- 面構成大切。

締切り 2月20日(必着)

梅の蕾もふくらみはじめ、春の到来が待ち遠しいこのごろです。最近入手した羊毛筆がことのほか書きやすく、条幅の半切などにも使えそうです。数本送りますので感想をお聞かせくださいね。

- 作品の出し方
- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
 - 用紙はがき課題はがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
 - 用具はがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
 - 両課題とも、書体変換は自由です。

※手本は水性ボールペン使用

梅の蕾もふくらみはじめ、春の到来が待ち遠しいこのごろです。最近入手した羊毛筆がことのほか書きやすく、条幅の半切などにも使えそうです。数本送りますので感想をお聞かせくださいね。

横 書 き 課 題

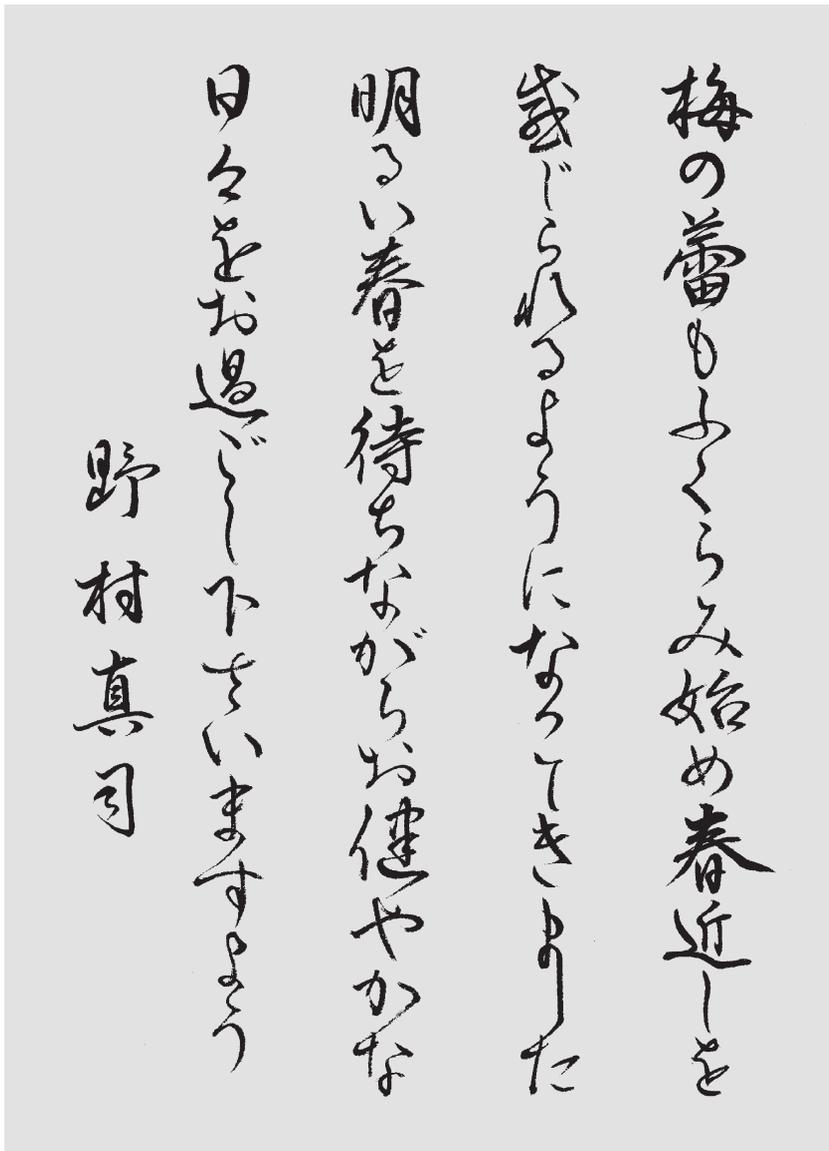
おか じま けい せん 書
岡 嶋 桂 川 書

人は誰でも文字を美しく、しかも速く書きたいと願うものです。
千葉県浦安市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



半紙 (334mm × 240mm)

伊藤梅香 書



締切り 二月二十日 (必着) 半切 (一三六cm × 三五cm)

新井龍峰 書

梅花舒両歳之装

柏葉汎三光之酒

〔大意〕梅の花は新旧
両年暮から正月にわ
たってひらき、柏葉は
日月星三光の酒を浮か
べている。
初出品の方へ
支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。

〔条幅解説〕

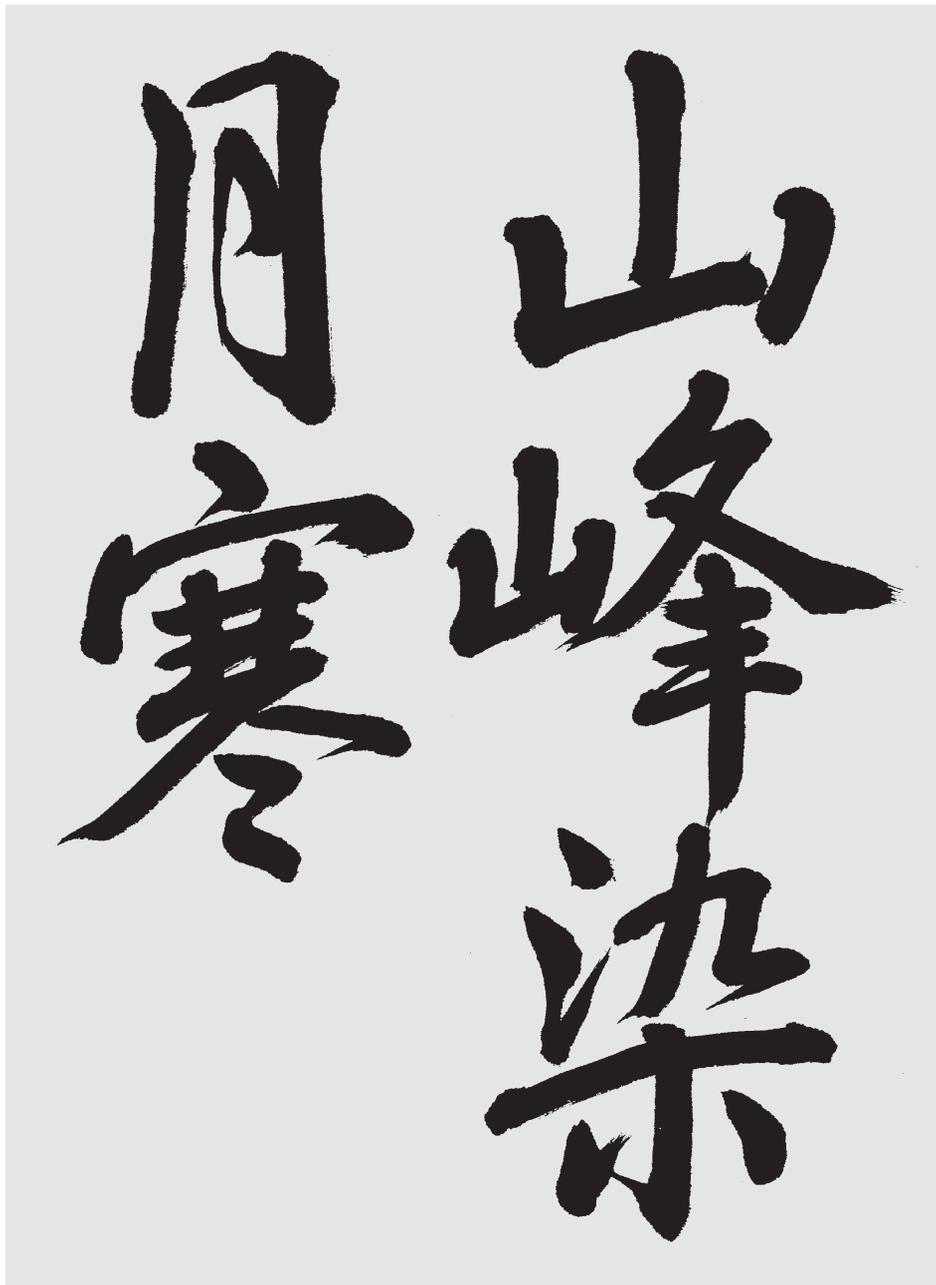
半切の条幅に限らず、筆・紙・墨の相性がよく
ないと思うように書けません。初心者の方は、比
較的にじみの少ない紙で濃いめの墨で書かれると
良いように思われます。又、一字書いては筆先を
整えたりせず、何文字かは筆先を整えずにリズム
よく運筆するよう、心掛けたいものです。

- 梅の蕾もふくらみ始め春近しを
- 感じられるようになってきました
- 明るい春を待ちながらお健やかな
- 日々をお過ごし下さいますよう
- ・印で墨つきしました。
- (ご自分の氏名)

〔条幅・細字作品の出し方〕

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績(天位〜5等)は、評価により毎月かわり
ます。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

新入から1級まで(行書)



清水翠芳書

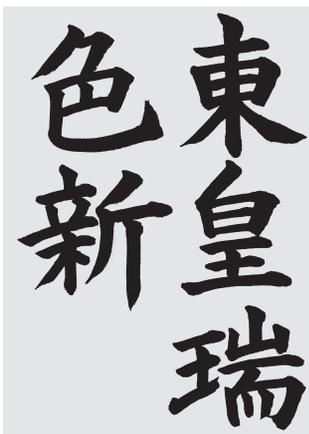
さんほうつきをそめてさむし
山 峰 染 月 寒

〔大意〕山や峰は冬の月に染め出されて見るからに寒い。

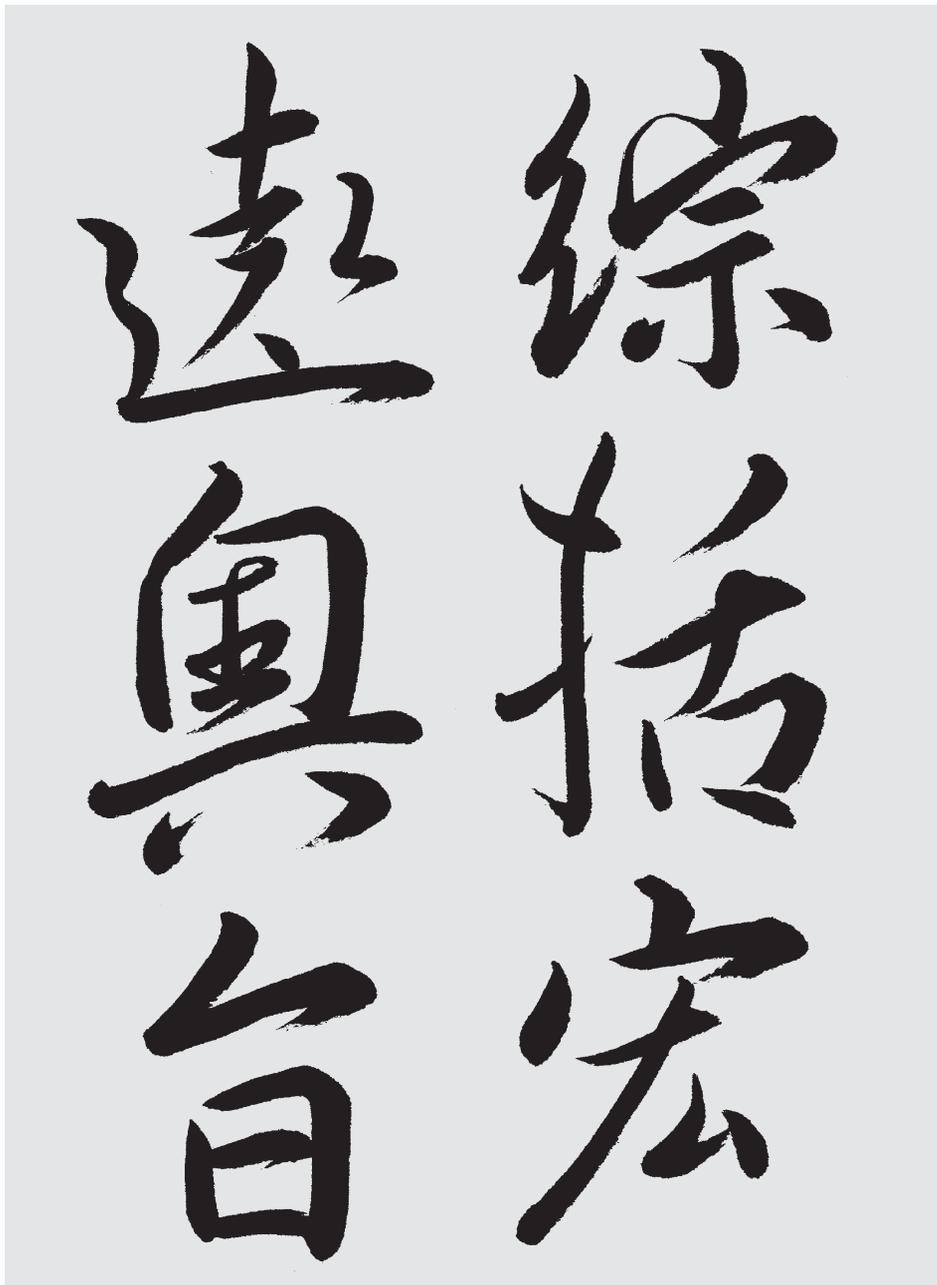
〔解説〕



◆3月課題予告(楷書)



準初段から師範まで



須田 一葉 臨

綜
括
宏
遠
奥
旨

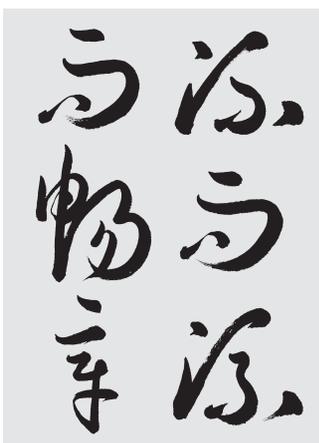


〔出典〕 集字聖教序(六七二)
 〔筆者〕 王羲之法書より集字
 〔読み〕 総括は広く遠く、奥旨は(はるかに深し。)

〔解説〕

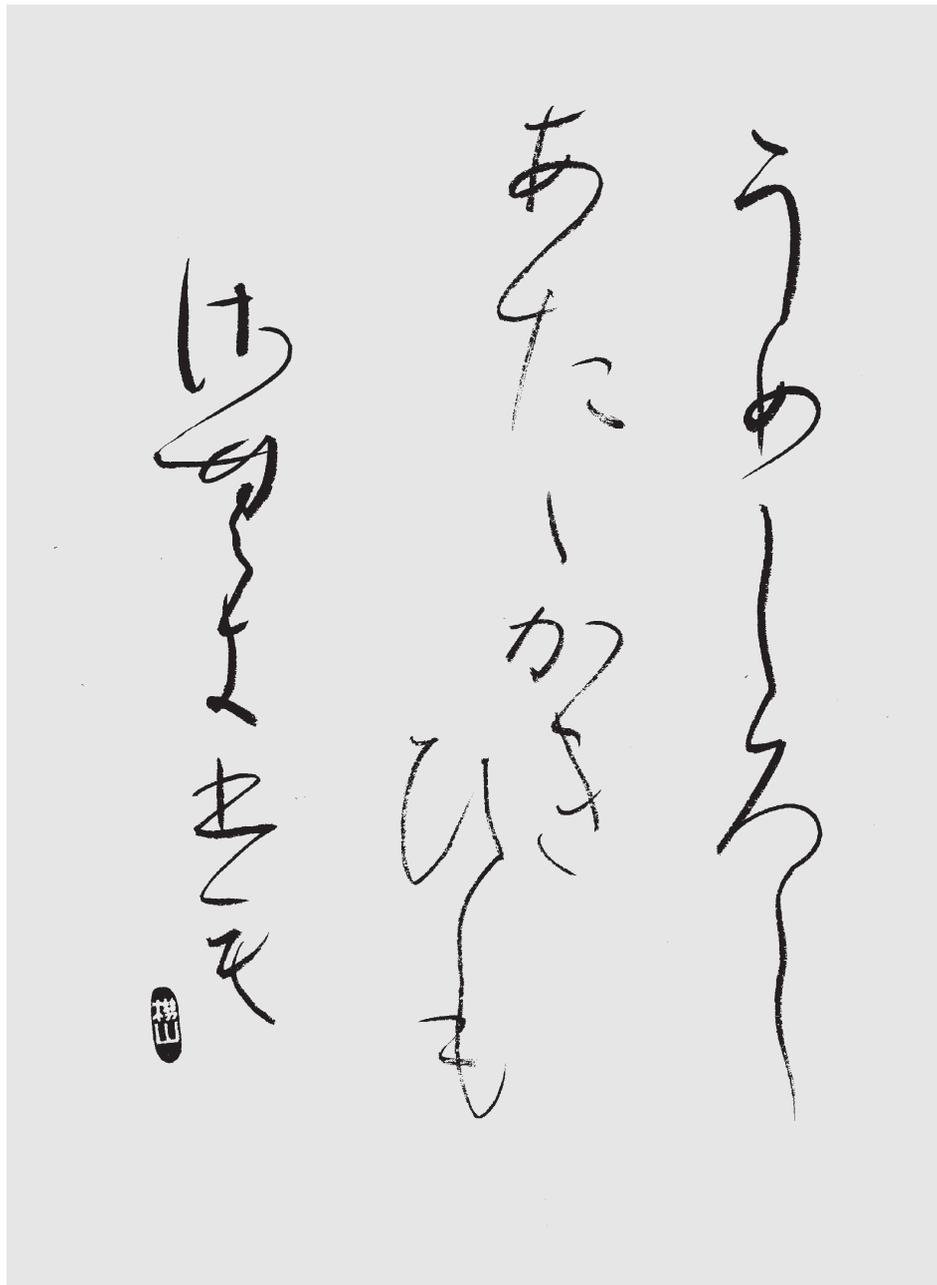


◆3月課題予告
 ※文献によって字体が異なる場合があります。



新入から1級まで

浅井機山先生書



梅^{うめ}白^{しろ}し 暖^{あたたか}かき日^ひも寒^{寒無}き日^{支悲}も

原^{はら}石^{せき}鼎^{てい}

〔句意〕

早春の気温は定まらない。寒暖のくり返
しである。しかし、梅は咲き、確かに春
であることをつけている、の意。おそら
くこの梅は野梅であろう。

〔古筆参考〕

佐^さ

佐依市市

無^む

無

支^し

支

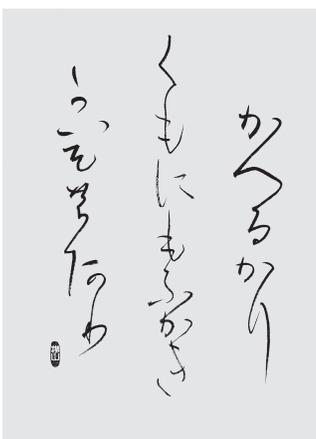
悲^ひ

悲

毛^{もう}

毛

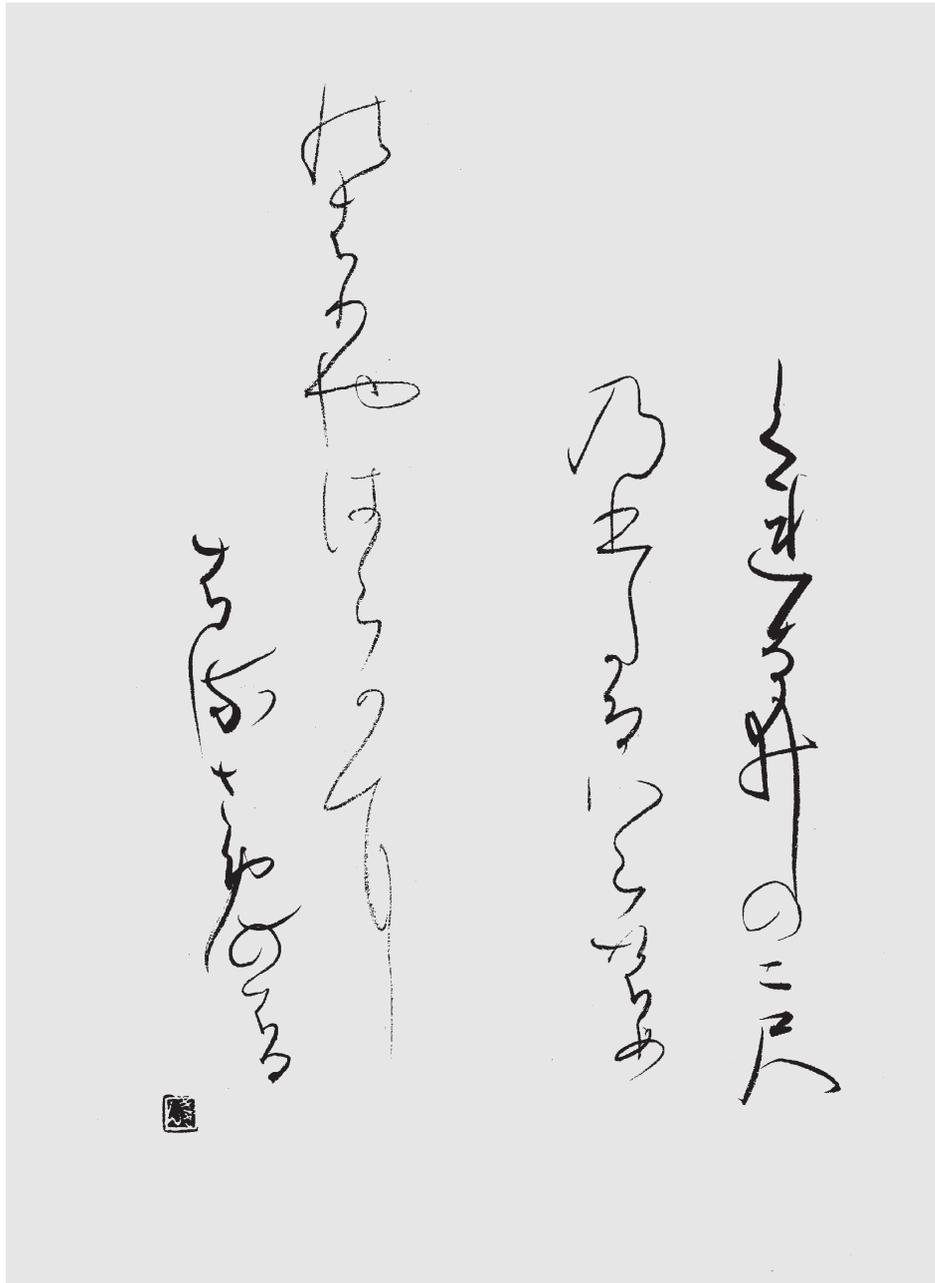
◆3月課題予告



帰^{かへ}る雁^{かりくも}雲^{うん}にも深^{ふか}き峽^{せき}のあり

準初段から師範まで

浅井機山先生書



連奈井の二尺伸びたる蓄薇の芽の
連奈井 乃悲多 八ら農め能
者利 針やはらかにはるさめの降る
可耳者流 免不

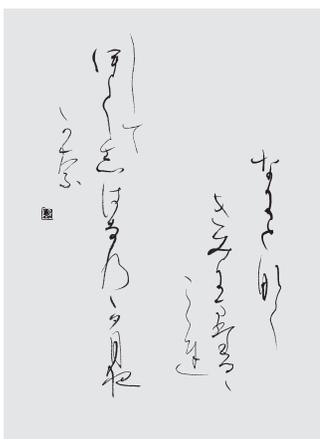
正岡子規

〔歌意〕 紅の色に二尺ほどにも伸びたバラの若芽の、そのやわらかい芽に、春雨が降りそそいでいる。

〔古筆参考〕

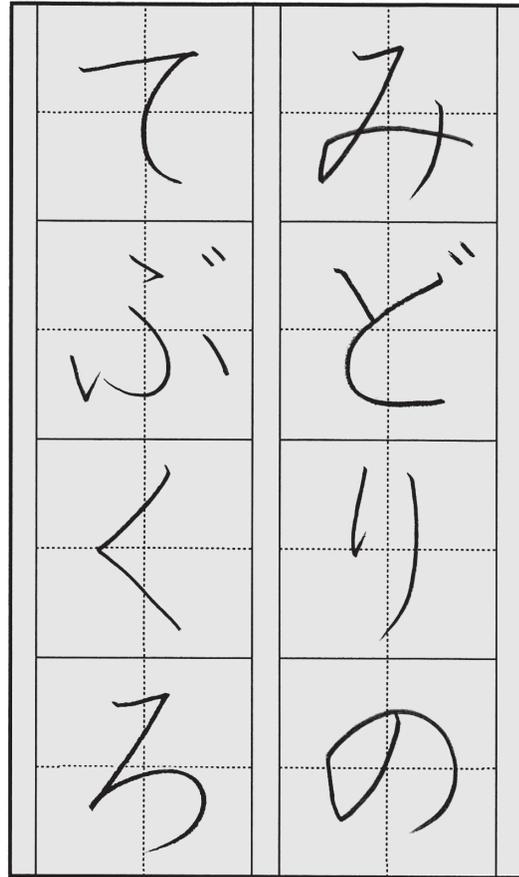
連 奈 悲 農 耳 流
 奈 奈 出 若 乃 乃
 奈 奈 出 若 乃 乃
 奈 奈 出 若 乃 乃

◆3月課題予告



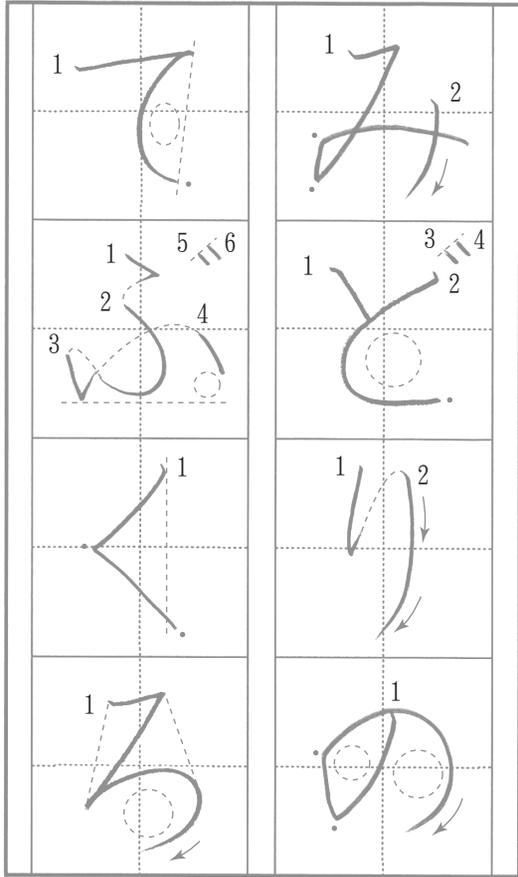
なにとなく君に待たるるこちして
 出でし花野の夕月夜かな

よ
う
年



★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。

◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)



〈ようぐ〉自由(黒色にかきこ)

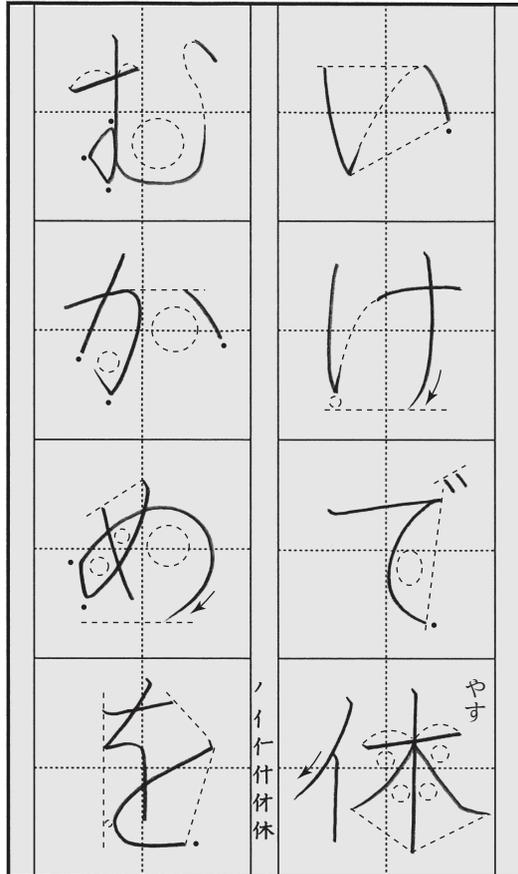
小
一
年



(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

準
初
段
以
上

新
入
〜
1
級



幼
年
〜
小
三
年
ま
で
三
宅
容
玉
書

小二年

で	に	妹
帰	ぎ	の
っ	り	左
た	二	手
よ	人	を

準初段以上

小三年

お	め	菓
湯	茶	を
を	わ	飲
注	ん	む
ぐ	に	た

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

〈ようぐ〉自由(黒色にかきこむ)

を	妹
に	の
ぎ	左
り	手

新入〜1級

お	茶
湯	わ
注	ん
ぐ	に

新入〜1級

〈用具 自由 (黒色に限る)〉

火 火 火 火 火 火 焼	ノ イ 一 一 一 一 一 仕
キ	ア 上
の	ケ
に	に

新入1級

り	げ	料
を	に	理
散	焼	の
ら	き	仕
す	の	上

小四年

準初段以上

小四年以上
前 嶋 玉 華 書

ア ン 案	レ キ 歴
ナ イ 内	シ 史
テ キ 適	メ イ 名
ニ シ 任	シ ヨ 所

解説 (よく見て習いましょう)

は	名	歴
適	所	史
任	案	好
の	内	き
友	に	て

小五年

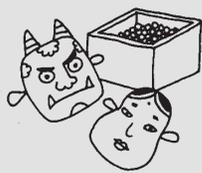
(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

▼小三年以下の課題 なが い や え こ 長 井 八重子 書

福 <small>ふく</small>	お	豆 <small>まめ</small>	カ <small>ちから</small>	兄 <small>あに</small>
は	に	ま	い	と
内 <small>うち</small>	は	き	っ	大 <small>おお</small>
	外 <small>そと</small>	す	ぱ	き
		る	い	な
		よ		声 <small>こえ</small>
				で

◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 2月20日 (必着)

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 よこ やま ゆう れん 横 山 友 漣 書

向 <small>む</small>	今 <small>こ</small>	家 <small>か</small>	入 <small>はい</small>	七 <small>なな</small>
い	年 <small>とし</small>	族 <small>ぞく</small>	っ	種 <small>しゅ</small>
て	は	み	た	類 <small>るい</small>
食 <small>た</small>	西 <small>せい</small>	ん	恵 <small>え</small>	の
べ	南 <small>なん</small>	な	方 <small>ほう</small>	具 <small>ぐ</small>
ま	西 <small>せい</small>	な	巻 <small>ま</small>	材 <small>ざい</small>
す	を	で	き	が

◎お手本はつけペン使用



◇作品の出し方

- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。



小二

左手

カ
ニ

る

幼年〜小二年
酒井智仔書

左 る

手 め

小一

か

め

小五
 案内所 名所

茶わん
 小三

上

茶

所

わ

案内

仕

仕上げ
 小四
 上

小三〜小五年

水野碧友書

中二・三

中実

継況

小六

安交

全通

小六〜中二・三年

永谷恵子書

配

通

況

安

継

朝

※行書では画のつながりに注意しよう。

かんむり小さく

中一

配早

達朝